

COLUMN

素顔のロシア

社団法人ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所 調査役
服部倫卓

ロシアのケータイ最前線

携帯加入者が総人口を上回る怪

RBCという情報機関が発表したデータによれば、2006年末現在のロシア国内の携帯電話加入者数は1億4,989万人となっています。総人口が1億4,230万人ですから、何とケータイ普及率が105%という計算になります。

実は、ロシアでは事業者がユーザーに販売した「SIMカード」(電話番号などの情報が記録されたICカード)の数が加入者数としてカウントされます。ユーザーが複数のSIMカードを保有し、一つの端末でそれらを使い分けているケースが少なくないため、このような現象が生じるわけですね。

それでは、重複分を除いた、実際の利用人口はどのくらいなのでしょう。一説によれば、1億人程度ではないかと言われています。1億人だとすると、普及率は70%くらいで、日本よりもやや低いくらいでしょうか。いずれにしても、ロシアで過去数年、携帯電話が急激に普及してきたことは事実であり、都市部の普通の市民なら、まず持っているアイテムになったと言っていいでしょう。

iモードの哀しい末路

ロシアの携帯電話事業のビジネスモデルは、日本とは対照的です。ロシアの特徴は、端末が高く、その代わり加入者の支払う通信料が小額であることです。

日本では、携帯事業者が販売奨励金を出すので、端末が安くなっているのです。ところが、ロシアでは事業者の販売するSIMカードと端末が分離しているので、端末は高いのです。2006年にロシアで販売された端末の平均価格は、約2万5,000円でした。平均価格は上がる一方で、最近ではわざわざローンを組んでケータイを買う消費者もいるようです。

一方、ロシアの携帯電話事業の稼ぎ所となっているのが、いわゆるARPU(加入者1人当たり月間平均収入)が低いことです。日本であればARPUは7,000円近いのですが、ロシア最大手のMTSの場合、わずか1,000円程度です。ロシアの消費者は通話とメールくらいしか利用せず、料金の高い高付加価値サービスにはあまり手を出さずとしないのです。

これを打破すると期待されたのが、我らがiモードでした。日本のNTTドコモとロシアのMTSは2004年12月、iモードサービスをロシアで展開するためのライセンス契約を締結しました。日本の端末メーカーも、iモードの導入がロシアでの拡販の追い風になると期待したようです。しかし、やはり壁は厚かったのか、ある情報によれば、iモード加入者は5,000人あまりしか集まらなかったといいます。MTSはiモード事業への追加投資を打ち切ることを決定したようで、どうやら日本発の先進サービスは自然消滅を待つだけの運命のようです。

